

2012 年度日本経済学会秋季大会ポスター報告要旨

村本 顕理

2012 年 4 月 22 日

本稿では、契約が不完備でありかつ再交渉が余剰和を減少させる状況下を考察する。Hart(2009), Muramoto(2012) は再交渉が余剰和を減少させる量 (以下、再交渉コストと呼ぶ) がどのように決定されるかを所与とした場合, どのようなトランスファーと資産所有権分布の組を契約するのがファーストベストあるいはセカンドベストになるのかを分析している。本稿では、資産がない状況を考える。代わりに再交渉コストが戦略的に決定される。買い手と売り手は財の取引を最終期に行い, トランスファーとして最終期の取引価格のみを契約する。価格は契約締結時点から見たナッシュ積を最大にするように締結される。もし、プレイヤーの一方が再交渉コストをコントロールすることができれば, 均衡では再交渉が起きないような再交渉コストと取引価格が実現する。さらに, 買い手にとっての財の価値の確率分布がある非対称性を満たせば, 均衡で達成される再交渉コストは厳密に正となり, 再交渉コストを増加させることでそのプレイヤーは厳密に利得を改善する。